細かい砂(粒径0.25～0.5mm区分が60％以上を，2mm以下は99.6％を占める)であるが，養浜部分は礫(2mm以上が半分以上を占め，最大は32mm)が多く混ざる。そのような砂利浜でも波打ち際は細かい砂(0.25～0.5mm区分が76％を，2mm以下は99.6％を占める)になり，元の昔の砂浜と同じ砂粒径組成となっている。波打ち際では波や風の働きによって砂粒径組成が変化したものと考えられる。しかし，それらの働きが及ばない陸側の部分は砂礫のままである。甲子園浜を白砂青松に造り変えようとするなら，波や風に代わってなんらかの手を加えることが必要であろう。

学会賞受賞のお知らせ

本会会員の橋本光政氏は植物地理・分類学会賞を，また，本会会長の白岩卓巳氏は日本植物分類学会賞を受賞されました。

植物地理・分類学会賞は，植物地理学や分類学の研究，教育，普及活動において顕著な功績のあった方に贈られる賞です。橋本光政氏は，兵庫県のフロラについて長年にわたる調査および『兵庫県の樹木誌』の編纂，氷ノ山での定点観察など植物地理学，分類学，生態学における業績が評価され，1999年度受賞されました。授賞式は1999年6月5日，福井県自然保護センターでの植物地理・分類学会大会において行われました。受賞記念講演「兵庫県の樹木誌解明の中から」の要旨は，『植物地理・分類研究』47巻2号85-95頁(1999)に掲載されています。

日本植物分類学会賞は植物調査および研究の業績を通して学会の発展に貢献した会員を顕彰するものです。2002年度は白岩卓巳氏が受賞されました。シダ植物を中心に兵庫県の植物の調査・研究を重ねられ，六甲山のブナ林や兵庫県のウマノスズクサ属など地域の植物に関する研究報告や，神戸と植物分類学の関わりについてのさまざまな著作を通じて植物分類学の普及に貢献し，兵庫県の植物研究の発展に大きく寄与されたことが評価されています。2003年3月15日，神戸大学で催された日本植物分類学会大会において，授賞式がおこなわれました。受賞記念論文は日本植物分類学会誌『分類』4巻1号(2004)に掲載される予定です。

第18回夏季臨海実習報告

西海將雄

目　的　海産生物を授業に取り入れる方法を研修する
期　間　平成15年7月28日～30日（2泊3日）
場　所　神戸大学内海域機能教育研究センター
　　(兵庫県津名郡淡路町岩屋2746)
講　師　村上明男先生
　　(神戸大学内海域機能教育研究センター助教授)
　　神谷充伸先生
　　(神戸大学内海域機能教育研究センター助手)
　　久保田信先生
　　(京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所助教授)
事務局　県立東播磨高校　　西海將雄

参加者　兵庫県15名(敬称略)…稲葉浩介(県立神戸高)，大川徹(私立神戸女学院中高)，太田由紀子(県立尼崎西高)，小原久代(県立伊川谷北高)，加藤浩義(県立淡路高)，阪口正樹(市立西宮東高)，坂野暢則(県立松陽高)，助友伸子(私立神戸海星女学院中高)，田中護(私立啓明女学院高)，千脇久美子(県立星陵高)，奈島弘明(県立兵庫高)，那須健治(県立神戸工業高)，萩原恒浩(市立尼崎東高)，八田康弘(私立神戸学院大附高)，西海將雄(県立東播磨高)

大阪府2名

日程と内容：

7月28日（月）月齢28.3日

午前10時に集合し，開講式を行う。大阪事務局高野先生より講師紹介。兵庫県生物学会の白岩会長が挨拶され，淡路島におけるナメクジウオの棲息を初めて確認した実績のある研究会であり，今回もぜひ実績を上げてほしいと激励。続いて神谷先生より諸注意。この後すぐ，車4台に分乗し，由良に向けて出発した。

由良到着後，昼食を取り，神谷先生の指導で海藻および動物の採集を行った。当日は好天に恵まれ，波もほとんどなく，絶好の採集日和であった。採集された海藻および動物の種類は，次の通りである。

緑藻：ボタンアオサ，アナアオサ，フトジュズモ，オオシオグサ，タマゴバロニア，フサイワズタ，ミル，ハイミル

褐藻：ヘラヤハズ，シワヤハズ，アミジグサ，フクリンアミジ，サナダグサ，ウミウチワ，カジメ，ヒジキ，イソモク，アカモク，ウミトラノオ

紅藻：ウスカワカニノテ，ピリヒバ，ヒライボ，ヘリトリカニノテ，マクサ，オニクサ，オバクサ，カイノリ，スギノリ，オオバツノマタ，ツノマタ，マ

ツノリ，コメノリ，ムカデノリ，フダラク，ヒトツマツ，スジムカデ，イバラノリ，カズノイバラ，タチイバラ，ホソバノトサカモドキ，オキツノリ，オオマタオキツノリ，ユカリ，ミゾオゴノリ，ヒラワツナギソウ，ハイウスバノリ，ユナ，ミツデソゾ，コブソゾ，ホソバナミノハナ

動物：ゴカイ，イトマキゴカイ，トコブシ，ヤツデヒトデ，イトマキヒトデ，バフンウニ，ムラサキウニ，セッカイカイメン，ダイダイイソカイメン，シロウミウシ，カメノテ，ムラサキイガイ，ホヤ，フジツボ

センター帰着後(午後3時)，神谷先生の指導で海藻の標本作りを行った。

午後8時より，神谷先生・久保田先生に講義をしていただいた。神谷先生は「生物の分類について」5界説以降の8界説(1981)から6界説(1998)への流れの中で，特に藻類が1つの界の中におさめられず，植物界・クロミスタ界・原生生物界に分類されるということである。久保田先生は「ベニクラゲの若返りについて」成体が卵に近い状態に戻るということであるが，そのメカニズムについては今のところ手がつけられていない。

7月29日（火）月齢29.3日

午前9時にセンターを出発し，岩屋港に向かい，実習船「おのころ」に乗り，佐野沖へ向かう。現地到着後，村上先生の指導でドレッジを開始する。ドレッジを3回行ったが，すべてきれいな砂地の地点で，ナメクジウオが全部で二十数匹採取できた。今回はイカナゴも数匹とれた。次にその周辺4ヶ所においてプランクトンネットを垂直に引いてプランクトンを採集した。今回はその周辺で水平引きも1回行った。また，赤潮が発生していたので，これも採集した。岩屋港に帰港し，湾内で付着生物(無脊椎動物)を採集した(カイメン，イガイ，ホヤ，ヒドロ虫等)。

午後1時30分より，実習を開始する。久保田先生の指導で，まず，採集ビンからプランクトンを取り出すためのポリスポイトをつくり，プランクトン観察を行った。方法は採集したプランクトンを顕微鏡で観察し，プランクトン図鑑を参照して，同定を行うものである。途中，兵庫県高等学校教育研究会生物部会の上中事業部長が挨拶され，その中でご自身で持参された「ヒノキバヤドリギ」について説明された。

午後7時からも引き続き，実習(プランクトン観察)を行った。また，ムラサキイガイに付着している動物の観察と，ムラサキイガイの解剖・観察も行った。

確認できたプランクトンは次の通り：

ウミタル，フジツボのノープリウス幼生・キプリス幼生，オタマボヤの一種，オベリアクラゲの一種，エビのノープリウス幼生，ウスカワミジンコ，エボシミジンコ，ソコミジンコ，ケンミジンコ類，チョウクラゲ，カラカサクラゲ，ヤコウチュウ，ナメクジウオ，ムラサキイガイ，ウキツノガイ，ホウキムシのアクチノトロカ幼生・アンフィオキサス幼生，クダクラゲ，プラヌラ幼生，ウニのプルテウス幼生，カニダマシ類のトロコフォア・ゾエア・メガロパ，ヤムシ，クラゲノミの一種，シャコのアリマ幼生，クモヒトデの幼生，ユメエビの幼体，ケラチウス，コスキノディスクス，キートケラス，リゾソレニア

7月30日（水）月齢0.3日

午前9時より，カクレガニの一種を観察した後，昨日観察できた生物の確認を行った。

続いて村上先生の指導でプロダクトメーターを用いて，光合成量測定の実験を行った。また，フィコシアニンの蛍光について，説明をしていただいた。

午後1時より，初日に作製した海藻標本の仕上げを行った。

午後3時より，閉講式を行い，午後3時30分解散。

今回の実習では，採集時には，参加者の積極的かつ迅速な行動により，短時間で作業が終了し，余った時間は実習・講義に回しました。また，実習・講義は延長の連続でした。参加者の中には徹夜で採集・観察をする方もあり，意義深い研究会となりました。

今回の実習は，兵庫県からの参加希望者が多かったので，大阪で予定していた人数を兵庫県に回していただきましたが，それでも定員をオーバーし，2名が選に漏れました。次回は予定では平成17年(隔年実施)ですが，平成17年は日本生物教育会全国大会が大阪で実施されるため，平成17年実施は難しい状況です。この件については，大阪と連絡を取りながら，生物部会・生物学会で検討いたします。

最後に，お世話になりました講師の先生方，センターの職員の方々に感謝致します。

兵庫県生物学会第57回大会報告

日　時：2003年(平成15年) 5月24日(土) 10:00～15:50
場　所：神戸クリスタルタワー，兵庫県立生活創造センター6階　講座・研修室
(神戸市中央区東川崎町1-1-3 電話078-360-8539)
参加者：北方英二　上中一雄　矢頭卓児　清水淳　前田常雄　大賀二郎　浜田史郎　山本一潔　田村統　東敏男　高岡得太郎　真野育三　鈴木武　福原陽一郎　渋野竜二　橋本光政　萩原修　丹羽信彰　宇那木隆　深水正和　杉田隆三　横山了爾　平畑政幸　田中貞之　小嶋良平　建武　横山雅一　林美嗣　奈島弘明　西海将雄　笹井隆邦　阪口正樹　永吉照人　工義尚　武田義明　白岩卓巳　谷本卓弥　以上37名

日　程：
1．受　　付　　10：00～
総合司会（丹羽）
2．開会の言葉（矢頭神戸支部長）　10：30
3．総会
（1）白岩会長挨拶
（2）議長選出（奈島　深水）
（3）議事
1）2002年度（平成14年度）会務報告（阪口）
2）2002年度（平成14年度）会計報告（工）・監査報告（北方）
3）2003年度（平成15年度）企画（案）審議　拍手で承認
4）2003年度（平成15年度）会計予算（案）審議　拍手で承認
5）その他　建会員の提案：生物学会はいろいろな方がいる。台所にあるしょう油や酢など身近にある物でできる実験書をつくりたい。小学校では理科・社会がなくなり生活科となっている。教科書にはない盲点をつくような実験書「身近なバイオハンドブック（仮称）」を作りたい。印税を執筆者に支払う。6月中旬までに阪口事務局長へ執筆希望者は申し出てほしい。8月の理事役員会で具体案を提案する。
（4）2003年度（平成15年度）役員委嘱
（5）研究奨励賞贈呈（山本一潔　福原陽一郎）
（6）感謝状贈呈（佐野駿介　橋本光政）
4．諸連絡
5．昼食・休憩　12:00
6．記念講演　　13:30～14:30
演題「海藻類の多様性を指標とした沿岸環境モニタリングと環境修復」
講師：神戸大学理学部構造生物学大講座系統発生教育研究分野教授・内海域機能教育研究センター所長　川井浩史　氏
7．研究奨励賞受賞者の講演　　14:30～15:30
山本一潔「塩生植物シバナの研究」
福原陽一郎「西但馬の海浜植物およびウミウシの調査研究」
8．会員の発表　15:30～15:50
橋本光政「県下の新しい植物情報」
9．閉会の言葉（武田副会長）　15:50
後援：神戸市教育委員会　　兵庫県教育委員会

2002年度（平成14年度）会務報告

2002年

4月6日（土）	第1回理事・役員会（新長田勤労市民センター）
4月15日	『兵庫生物ニュース』No.51
5月26日（日）	第56回大会（阪神支部担当　アクタ西宮東館6階会議室）
6月8日	『兵庫生物ニュース』No.52
6月15日	氷ノ山古生沼定点調査
7月24日	『兵庫生物』第12巻3号発送
7月28日	甲子園浜定点調査　20名参加
8月3～7日	西表島生物観察会（甘中先生のお世話で）14名参加
8月7～9日	昆虫標本づくり指導者養成講座　8名参加
8月26日	氷ノ山古生沼定点調査　8名参加 ヘリコプターの頂上旋回　ジェット戦闘機の超低空飛行
8月31日	第2回理事・役員会（姫路　賢明女学院）
9月8日	オニバス観察会（伊丹　黒池　水田さんのお世話で）
9月13日	『兵庫生物ニュース』No.53
9月28日	宝塚山林焼け跡調査
12月7日	第6回研究発表会（神戸大学発達科学部）18名参加　発表者5名
12月25日	『兵庫生物ニュース』No.54

2003年

3月31日（月）	会計監査（県立人と自然の博物館）